

令和 3 年度 政策評価結果

令和 3 年 9 月

京 都 市

1 政策評価制度とは

(1) 政策評価制度の目的

政策評価制度は、京都市基本計画に掲げた政策・施策それぞれの分野において、その目的がどの程度達成されているかを、各種の指標やアンケート調査を基に把握し、市民の皆様に公表するとともに、より効果的な市政の運営や政策の企画・立案等にいかすためのものです。

なお、評価の結果は、毎年度の京都市の取組だけによるものでなく、これまでの取組の積重ねや、国その他の行政や民間など幅広い活動を踏まえたものとなります。そのため、毎年の評価結果だけでなく、中長期的な評価結果の動向や様々な主体の幅広い活動が及ぼす影響等も考慮したうえで、市政に活用します。

(2) 取組経過

平成15年度	試行実施
平成16年度～	本格実施
平成19年度	京都市行政活動及び外郭団体の経営の評価に関する条例（行政評価条例）の制定・施行
	〔政策評価、事務事業評価等の7つの評価制度を〕 〔恒久的・継続的な取組に位置付け〕
令和2年度	3月 「はばたけ未来へ！ 京プラン2025（京都市基本計画第3期）」（以下「京プラン」という。）の策定
令和3年度	5月 新たな「京プラン」に基づく市民生活実感調査を実施
	9月 新たな「京プラン」に基づく政策評価結果を公表 （今後の予定） 政策評価委員会に評価結果を報告し、 来年度の政策評価方法の改善方針等について審議

(3) 政策評価の対象と手法

ア 評価の対象

令和3年3月に策定された、令和3年度から5年間の都市経営の基本である「京プラン」の政策体系をベースに、特定の行政課題に対応するために本市が目指すべき基本的方向である政策（27項目）と、政策をより具体化した行政活動の目標となる施策（114項目）を評価します。

イ 評価の手法

政策・施策ごとに、統計データ等の中から客観指標を設定して目標達成度等の成果を測る「客観指標評価」と、「京プラン」に掲げた「みんなでめざす2025年の姿」に対して今の市民生活がどうなっているかをアンケートでお尋ねする「市民生活実感評価」の結果を総合し、A～Eの5段階で評価します。

なお、政策評価制度については、政策評価委員会からの意見を踏まえ、毎年度、客観指標や評価票の見直しなど充実、改善を行っており、今年度も実態に合わなくなった客観指標や目標値を見直すなど、よりの確で分かりやすい制度づくりを進めています。

【客観指標評価】→a～eの5段階評価

政策指標の例：市内の学生数が全国の学生数に占める割合

施策指標の例：京都ならではの単位互換科目の開設数

- * 各政策・施策の状況を統計的な数値等により表した客観指標をそれぞれに設定し、その目標達成度を評価します。
- * 政策については、関連する施策の評価を加味して評価します。

【市民生活実感評価】→a～eの5段階評価

アンケートの設問例：「大学のまち」として学びの環境が充実し、京都ならではの学びと出会うことができる。

- * 市の取組についてどう思うかではなく、市民生活がどのようになっているかを118の設問でお尋ねし、「そう思う」から「そう思わない」までの5段階で答えていただきます。

【総合評価】→A～Eの5段階評価

政策・施策の目的が

- A：十分に達成されている
- B：かなり達成されている
- C：そこそこ達成されている
- D：あまり達成されていない
- E：達成されていない

- * 政策・施策それぞれで客観指標評価と市民生活実感評価を同等に扱い、総合評価を行います。ただし、客観指標評価と市民生活実感評価の評価結果の平均がA～Eの5段階で区分できないときは、施策の具体的な内容等に応じて予め定めておいた、より重視すべき方の評価結果（客観指標評価又は市民生活実感評価）を重視して、総合評価を行います。

2 令和3年度政策評価における新型コロナウイルス感染症拡大の影響について

令和3年度政策評価の客観指標評価は、令和2年度実績を主に評価するところ、令和2年度においては、年間を通して新型コロナウイルス感染症の影響が市民生活や経済活動に大きく及んでおり、政策評価においても客観指標の実績値等にその影響が表れています。

<客観指標の実績値に新型コロナウイルス感染症の影響が表れている事例>

○ 新型コロナウイルス感染症の影響により実績値が悪化し、評価が大幅に下がった例

政策6「スポーツ」

指標「市内で直接スポーツを観戦した市民の割合」

令和元年度：30.8%（達成度65.0%） → 令和2年度：7.5%（達成度15.0%）

指標「スポーツ活動にボランティアとして参加した市民の割合」

令和元年度：4.6%（達成度49.5%） → 令和2年度：2.3%（達成度23.0%）

新型コロナウイルス感染症の影響によるスポーツ施設の一時的な閉鎖や京都マラソンのオンライン開催、多くのスポーツ大会の中止等により、上記の割合が大きく減少しました。

○ 新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、目標値を設定することにより、次年度以降に評価を行う例

政策8「観光」

指標「市民生活への観光の影響」、「観光消費額単価」など

令和3年度に開催する「観光振興計画2025」マネジメント会議において、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえて、客観指標の目標値を設定する予定です。

政策11「国際」

指標「外国籍の住民基本台帳登録者総数」など

新型コロナウイルス感染症の影響を受けた令和2年度の状況を踏まえて、客観指標の目標値を「令和2年度以降の最高値」と設定しており、令和2年度実績は適切に評価できないことから、今年度の評価を見送っています。

○ 新型コロナウイルス感染症の影響で令和2年度の実績値把握を見送った例

政策20「歩くまち」

指標「非自動車分担率」

新型コロナウイルス感染症の影響により、人と自動車などの移動が平年と異なる交通実態となることから、非自動車分担率に係る調査の実施を見送ったものです。

令和3年度政策評価においては、こうした客観指標の状況と市民生活実感調査を基に政策・施策の評価を行い、今後の方向性を検討しました。

3 政策評価結果

(1) 政策の評価

令和3年度の政策評価については、令和3年3月に策定された新たな京プランに基づき、政策・施策の評価を行いました。政策の評価結果は次のとおりです。

政策の 総合評価	A 十分に達成 されている	B かなり達成 されている	C そこそこ達成 されている	D あまり達成 されていない	E 達成されて いない	計
令和3年度	6	15	5	1	0	27

主な政策の総合評価の結果等

○ 政策名「市民生活とコミュニティ」(政策番号3) C

政策の客観指標である「自治会等加入率」や「NPO法人数」が伸び悩んだことに加え、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う人と人との交流機会の減少、地域活動の中止・縮小が影響し、生活実感がc評価となったことなどから、総合評価はC評価となりました。今後は、コロナ禍にあっても、感染予防を講じて活動いただく「新しい地域活動スタイル」の普及や、地域におけるコミュニケーションの円滑化等につながるICTツールの導入支援、地域団体・NPO等あらゆる主体の連携を深め、多様な地域コミュニティの活性化に向けたまちづくりを進めてまいります。

○ 政策名「スポーツ」(政策番号6) D

新型コロナウイルス感染症の影響によるスポーツ施設の一時的な閉鎖や京都マラソンのオンライン開催、多くのスポーツ大会の中止等により、客観指標が低評価となりました。また、スポーツ活動の制限により、スポーツを楽しんだり身近に触れる機会についての生活実感も伸び悩んだことから、総合評価はD評価となりました。引き続き、コロナ対策を徹底しつつ、関係団体等と連携して、スポーツが身近にある健康で心豊かなくらしの実現、スポーツの絆が生きる社会の推進、スポーツによるまちの魅力向上に取り組んでまいります。

○ 政策名「産業・商業」(政策番号7) A

「市内中小企業者の企業経営実績」の政策指標が新型コロナウイルス感染症の影響を受けてb評価にとどまった一方、「市内中小企業等の相談対応件数」や「スタートアップ設立件数」などの施策指標はa評価となりました。また、地域企業への支援の成果が生活実感にも一定繋がったことから、総合評価はA評価となっています。今後も、地域企業が事業を継続できるよう、徹底した伴走型の下支援を行うとともに、デジタル化の促進による生産性の向上や、起業・スタートアップ等を含む新しい価値の創出支援を行っていきます。

○ 政策名「観光」（政策番号 8） B

新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、令和 3 年度に各客観指標の目標値を設定する予定であることから、令和 2 年度の客観指標の評価は行えなかったものの、「観光は産業振興や雇用拡大、文化や景観の維持・向上、公共交通の充実など、地域に恩恵をもたらしている」等の生活実感が b 評価であったことから、総合評価は B 評価となりました。今後、令和 3 年 3 月に策定した「京都観光振興計画 2025」に基づき、コロナ禍からの力強い回復を図る取組を進めるとともに、市民生活と観光の調和の下、持続可能な観光の実現を目指してまいります。

○ 政策名「国際」（政策番号 11） B

新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、令和 2 年度の客観指標の評価は行えなかったものの、「京都の魅力発信」や「海外の都市との様々な交流」に係る生活実感が概ね評価されていることから、総合評価は B 評価となりました。今後、令和 3 年 3 月に策定した「国際都市ビジョン」に基づき、都市の成長に繋がる情報発信や環境整備、都市間交流や担い手育成等を図るとともに、多様性を生かしたまちづくりの推進に向け、コミュニケーション支援や地域社会での異文化理解の促進に一層取り組んでまいります。

＜政策の評価結果一覧＞

政策	評価 (R3年度)
1 環境	A
2 人権・男女共同参画	C
3 市民生活とコミュニティ	C
4 市民生活の安全	B
5 文化	B
6 スポーツ	D
7 産業・商業	A
8 観光	B
9 農林業	B
10 大学	B
11 国際	B
12 子ども・若者支援	B
13 障害者福祉	B
14 地域福祉	B

政策	評価 (R3年度)
15 健康長寿	B
16 保健衛生・医療	B
17 学校教育	B
18 生涯学習	B
19 危機管理・防災・減災	C
20 歩くまち	C
21 土地・空間利用と都市機能配置	C
22 景観	B
23 建築物	A
24 住宅	B
25 道と公園・緑	A
26 消防・救急	A
27 くらしの水	A

【参考】 令和２年度の政策評価結果

※ 令和３年度の政策評価とは、対象となる京都市基本計画の政策内容及び評価を構成する客観指標・市民生活実感調査項目が異なるため、単純な比較はできません。

<政策の評価>

政策の 総合評価	A 十分に達成 されている	B かなり達成 されている	C そこそこ達成 されている	D あまり達成 されていない	E 達成されて いない	計
令和２年度	6	14	7	0	0	27

<政策の評価結果一覧>

政策	評価 (R2年度)	政策	評価 (R2年度)
1 環境	A	15 地域福祉	C
2 人権・男女共同参画	B	16 高齢者福祉	B
3 青少年の成長と参加	C	17 保健衛生・医療	A
4 市民生活とコミュニ ティ	B	18 学校教育	A
5 市民生活の安全	C	19 生涯学習	B
6 文化	C	20 歩くまち	B
7 スポーツ	C	21 土地利用と都市 機能配置	B
8 産業・商業	A	22 景観	B
9 観光	B	23 建築物	A
10 農林業	B	24 住宅	B
11 大学	A	25 道と緑	B
12 国際化	B	26 消防・防災	C
13 子育て支援	C	27 くらしの水	B
14 障害者福祉	B		

(2) 施策の評価

令和3年度の施策の評価結果は次のとおりです。

施策の 総合評価	A 十分に達成 されている	B かなり達成 されている	C そこそこ達成 されている	D あまり達成 されていない	E 達成されて いない	計
令和3年度	16	68	21	9	0	114

(参考)

施策の 総合評価	A 十分に達成 されている	B かなり達成 されている	C そこそこ達成 されている	D あまり達成 されていない	E 達成されて いない	計
令和2年度	26	58	26	4	0	114

※ 各施策の評価を示した評価結果一覧や政策・施策評価の根拠となる客観指標、市民生活実感の基礎データ等、評価に係る詳細な情報については、政策評価結果のホームページ及び京都市オープンデータポータルサイトにおいて公開しています（ホームページアドレスは下記のとおり）。

- 政策評価結果ホームページ

<https://www.city.kyoto.lg.jp/menu5/category/69-17-2-5-0-0-0-0-0-0.html>

- 京都市オープンデータポータルサイト

※サイト内で「政策評価」「市民生活実感調査」と検索ください。

<https://data.city.kyoto.lg.jp/>

4 評価結果を市政運営へ活用

評価結果については、来年度の予算編成、各局区等の政策推進などの際に、重要な情報として活用していきます。

5 第三者機関の意見 ～京都市政策評価委員会による制度の改善、充実～

今後、第三者機関である京都市政策評価委員会から今回の政策評価結果に関する御意見を頂き、来年度に向けて制度の改善、充実を行います。

京都市政策評価委員会委員（敬称略・五十音順）

掛谷 純子 京都女子大学現代社会学部准教授
中井 歩 京都産業大学法学部教授
中田 英里 公認会計士
深川 光耀 花園大学社会福祉学部専任講師
山本 安佳里 市民公募委員

（令和3年9月1日時点）

＜令和３年度 市民生活実感調査について＞

１ 調査対象

２０歳以上の市民３，０００人（住民基本台帳（外国人データ含む）から無作為抽出）

２ 調査内容

（１）生活実感

「はばたけ未来へ！ 京プラン２０２５（京都市基本計画 第３期）」に掲げた「みんなでめざす２０２５年の姿」に対して、今の市民生活がどうなっているかをお尋ねするため、１１８の設問について市民の実感を、次の５段階で回答いただくもの

a：そう思う b：ややそう思う c：どちらとも言えない
d：あまりそう思わない e：そう思わない

（２）政策の重要度

２７政策のそれぞれについて、市民が考える重要度を５段階で回答いただくもの

（３）市政への関心度

市政への関心度合いを５段階で回答いただくもの

（４）幸福実感

幸福の実感度合いを５段階で回答いただくもの

３ 調査期間

令和３年５月２５日～６月２５日

４ 回収状況

有効回答数 １，１８３ （回収率：３９．４％）

	有効回答数	回収率
令和３年度	１，１８３	３９．４％

（参考）

令和元年度	１，４５４	３６．４％
平成３０年度	９６４	３２．１％

※令和３年度の調査結果は、令和元年度以前の調査結果と調査項目及び内容が異なるため、単純比較できません。

※調査対象者数は、令和３年度、平成３０年度は３，０００人、令和元年度は４，０００人です。

※令和２年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により調査を中止しています。

5 調査結果

(1) 生活実感

ア 生活実感調査結果の集計

	a	b	c	d	e	計
令和3年度	8	33	70	7	0	118

(参考)

	a	b	c	d	e	計
令和元年度	20	48	55	7	0	130

イ 肯定的な回答（アのaとbを合わせた回答）をした人の割合が高い設問

令和3年度	①上下水道は安全で安心していつでも利用できる。(84.0%)
	②市バス・地下鉄は、市民生活に役立っている。(82.7%)
	③上下水道は便利で市民の役に立っている。(82.0%)

(参考)

令和元年度	①三山の山並みなどの自然風景は、美しく魅力がある。(83.4%)
	②京都の上下水道は、安全で安心していつでも利用できる。(82.8%)
	③京都では、文化芸術にかかわる活動が盛んである。(80.0%)

ウ 否定的な回答（アのdとeを合わせた回答）をした人の割合が高い設問

令和3年度	①農林業が魅力的な産業となり、後継者や新たな担い手が育っている。(51.3%)
	②自転車がルールやマナーを守って安心・安全で快適に利用されている。(50.0%)
	②市民がスポーツに身近に触れる機会があり、スポーツがまちの魅力を高めている。(47.4%)

(参考)

令和元年度	①プロスポーツやトップレベルのスポーツに身近に触れる機会がある。(46.5%)
	②まちなかや観光地において、自動車による渋滞が減っている。(43.5%)
	②身近な地域で空き家が減っている。(43.5%)

エ 政策の生活実感評価

生活実感調査の回答を点数化（a:2点 b:1点 c:0点 d:-1点 e:-2点）し、政策分野別に集計した結果、生活実感評価の高い政策分野順位は別表1のとおりとなりました。

【別表 1】生活実感評価の高い政策分野順位

令和 3 年度順位	政策分野
1	くらしの水
2	景観
3	歩くまち
4	消防・救急
5	産業・商業
6	環境
7	大学
8	国際
9	建築物
10	保健衛生・医療
11	観光
12	市民生活とコミュニティ
13	道と公園・緑
14	住宅
15	土地・空間利用と都市機能配置
16	健康長寿
17	子ども・若者支援
18	生涯学習
19	市民生活の安全
20	学校教育
21	文化
22	障害者福祉
23	危機管理・防災・減災
24	地域福祉
25	スポーツ
26	人権・男女共同参画
27	農林業

(2) 政策の重要度【別表 2 参照】

27 政策それぞれについて、市民が考える政策の重要度を、「重要」、「やや重要」、「どちらとも言えない」、「あまり重要でない」、「重要でない」の 5 段階で回答いただくもの

「重要」又は「やや重要」と回答した人の割合が高い政策

令和 3 年度	①消防・救急，②くらしの水，③保健衛生・医療， ④危機管理・防災・減災，⑤市民生活の安全
---------	---

(参考)

令和元年度	①消防・防災，②くらしの水，③環境，④学校教育， ⑤保健衛生・医療
-------	--------------------------------------

(3) 市政への関心度（市政への関心度合いを 5 段階で回答）

	そう思う	やや そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう 思わない	無回答
令和 3 年度	27.0%	34.1%	23.1%	10.1%	4.1%	1.6%

(参考)

	関心がある	少しは 関心がある	あまり 関心がない	まったく 関心がない	わからない	無回答
令和元年度	32.9%	47.1%	11.0%	1.2%	3.9%	3.9%

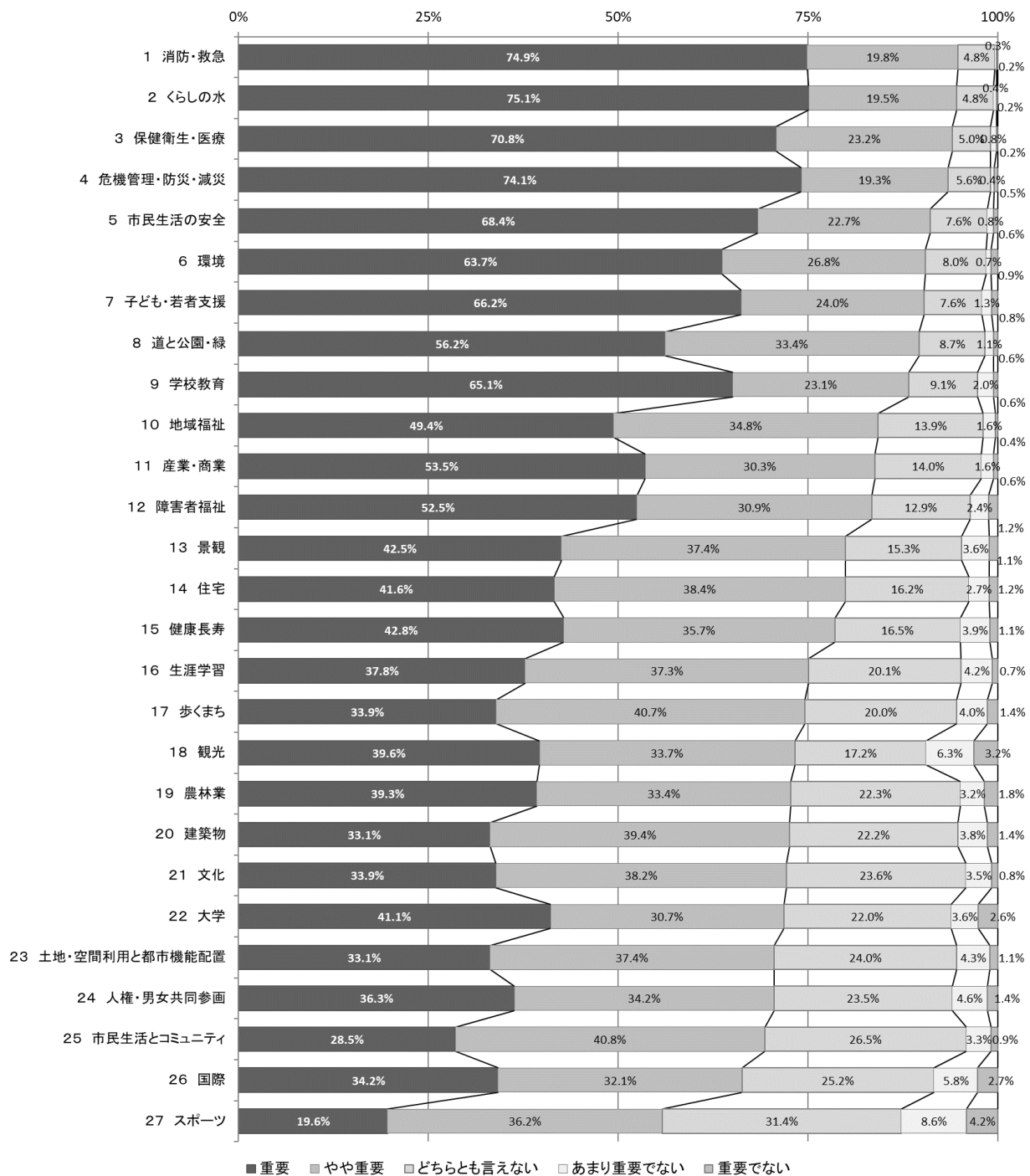
(4) 幸福実感（幸福の実感度合いを 5 段階で回答）

	そう思う	やや そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう 思わない	無回答
令和 3 年度	28.8%	39.1%	18.0%	8.3%	4.1%	1.7%

(参考)

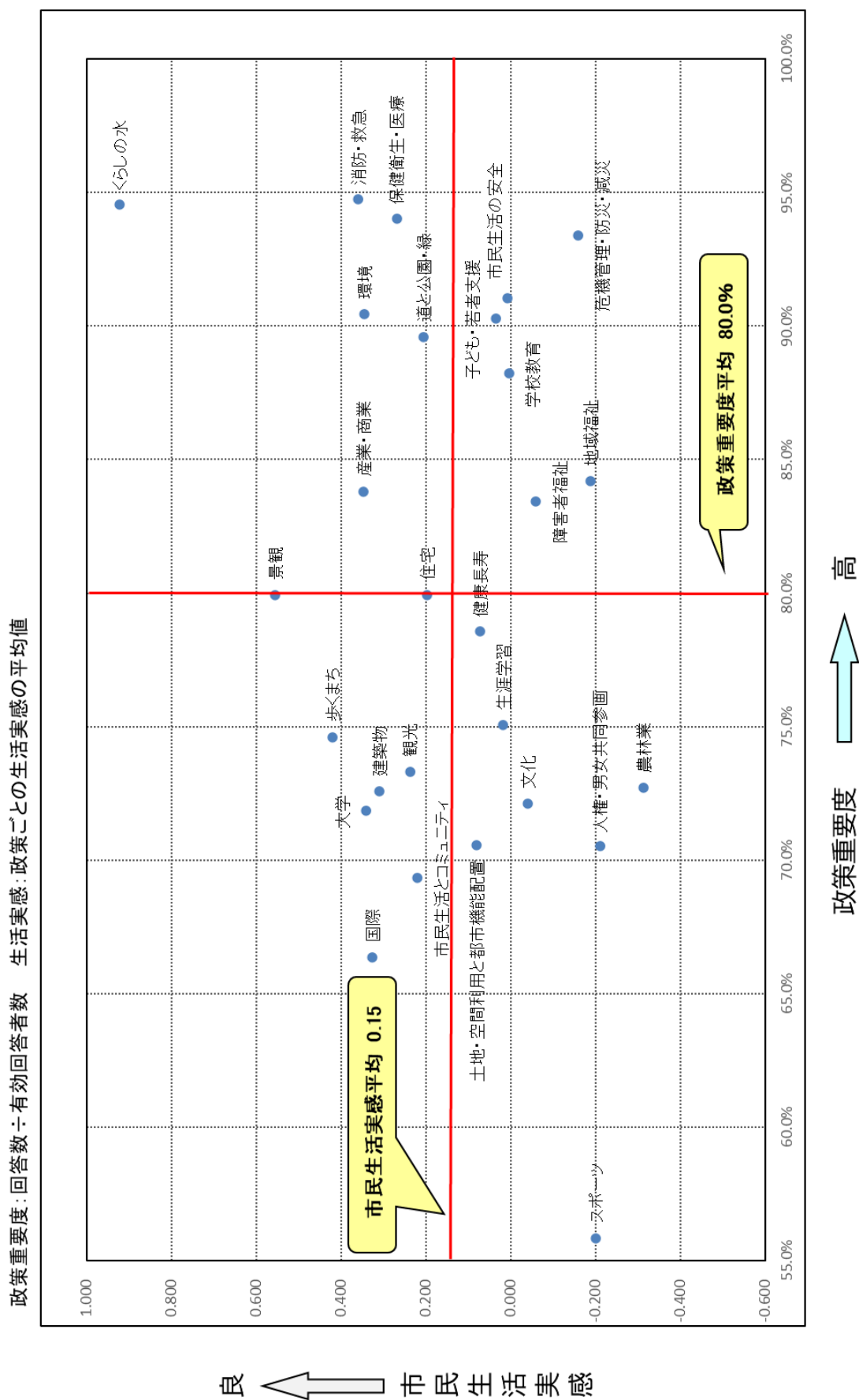
	とても 幸せだと思 う	どちらかとい うと幸せ だと思	どちらとも 言えない	どちらかとい うと幸せ ではないと思 う	不幸せ だと思	無回答
令和元年度	15.9%	58.0%	15.1%	5.4%	1.2%	4.4%

【別表 2】政策の重要度

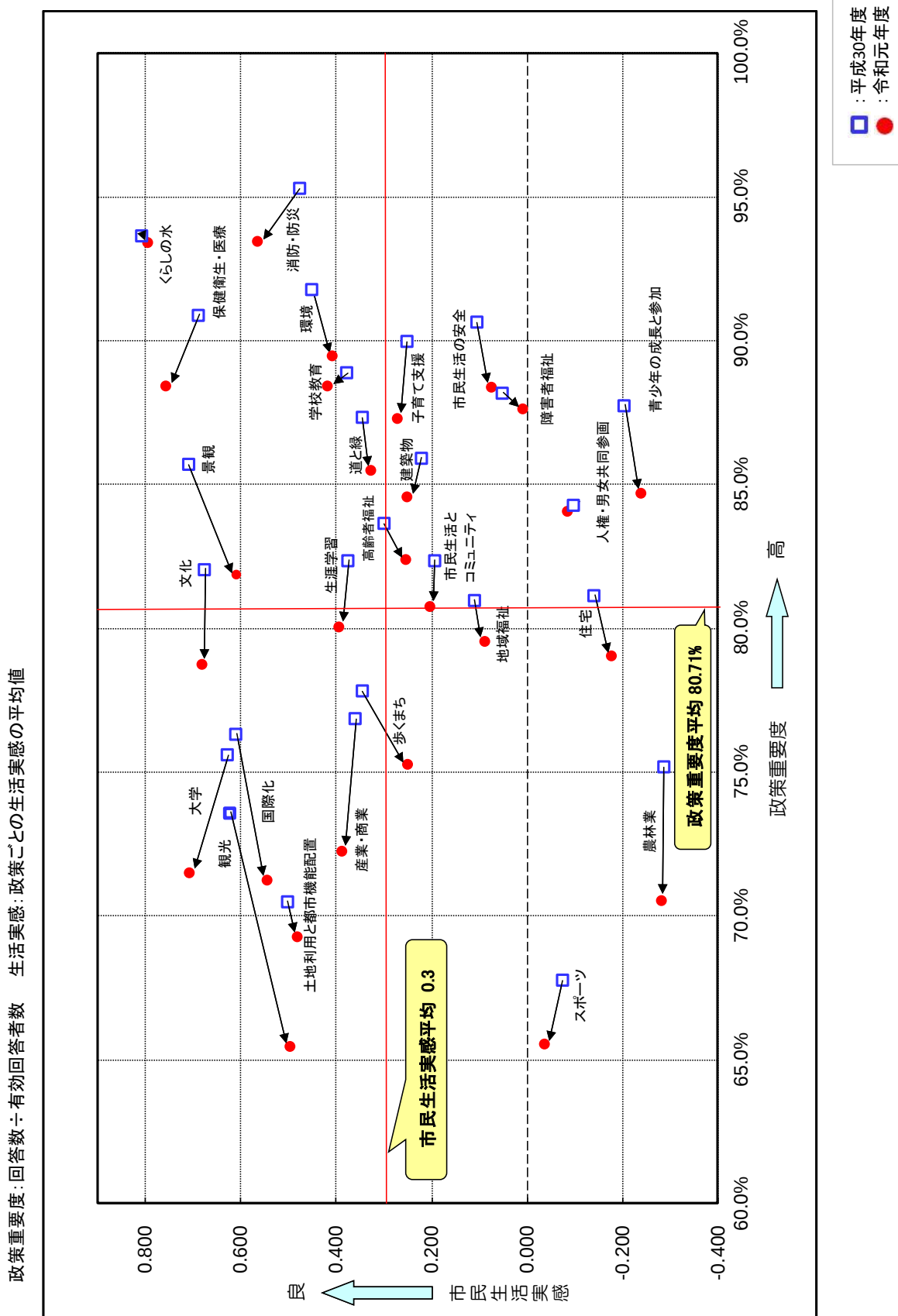


※ 上記グラフ内は、有効回答に占める「重要」～「重要ではない」を選択した人の割合を記載している。
 ※ 政策重要度は、「重要」又は「やや重要」を選択した人数を有効回答数で除する方法により、順位付けを行っている。
 なお、上記グラフではそれぞれの割合の内訳を示しているため、四捨五入の関係で、「重要」と「どちらとも言えない」の割合の合計が同率となる場合がある。

【別表3】令和3年度の政策重要度と生活実感のマトリックス



【参考】令和元年度・平成30年度の政策重要度と生活実感のマトリックス



政策評価結果は以下のホームページに掲載しています。

また、９月２２日（水）から京都市情報公開コーナーにおいても公開します。

- 政策評価結果ホームページ

<https://www.city.kyoto.lg.jp/menu5/category/69-17-2-5-0-0-0-0-0-0.html>

- 京都市オープンデータポータルサイト

※サイト内で「政策評価」と検索ください。

<https://data.city.kyoto.lg.jp/>

※ 施策評価結果及び政策・施策評価の根拠となる客観指標や市民生活実感の基礎データ等は上記サイトを御参照ください。

京都市の政策評価に関する御意見・御提案をお待ちしています。

- ホームページ内の送信フォームによる受付

（「市民意見申出制度」ホームページ

<https://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000253980.html>）

- 電話・FAXによる受付

京都市総合企画局市長公室政策企画調整担当

TEL：075-222-3035 FAX：075-213-1066